

「恥を知り 恩を知り 足るを知る」

Aさんと雑談を交わしているとき、Aさんが「ところで住職は種々様々な方と接することがあると思いますが、どんな人に好感を持たれ、どのような方が立派な人だと思いますか？」と問われる。躊躇無く「恥を知り、恩を知り、足るを知る人ですね。」と応えました。

ちょうどその前日、書斎の整理をしていて、八王子の三吉くんと言われる当時高校生が「渋々ごみを拾った自分を恥じる」という題名で新聞の読者の広場に投稿された古いスクラップを見つけ、久しぶりに読み直して、立派な人だなあと感心させられ、教えられ、その後私は立派な人間像とはどんな人であるか真摯に思案をめぐらせていたので躊躇無く返事が出来たのです。

三吉くんが友人と、ある公園に行ったとき、年配の清掃員の方々がごみを拾って掃除に励まれていました。その姿を見た友人は周りに落ちているごみを拾い始めたのです。三吉くんは友人に「掃除はあの人達の仕事だから君がすることはないじゃないか。」と言いました。すると友人に「見ているだけというのは最低だよ。」と注意されてしまい、三吉くんは渋々ごみを拾う手伝いをしたのです。しかし後日そのことを思い出したとき、一瞬でも「そこまでして拾う必要はない」と思った自分を心の底から恥じましたという投稿です。

恥ずかしいという字は耳偏に心と書くのです。このことは人の意見(仏法)をよく耳で聞いて、自分の心を正しく見つめたときの心の姿なのでしょう。三吉くんはそれ以来道に落ちているごみを出来るだけ拾うようにしているとのこと。“恥ずかしい私でした”と気付かれた三吉くんは立派な人だと思うのです。恥を知ること大切なことなのです。

このように恥ずかしい自分に気付かされるとご恩の世界が見えてくるのです。

私が今日こうして生活が出来るのは両親は言うに及ばず、直接、間接にどれだけのの方々之恩恵を受けていることか。更には仏様からも大きな恩恵をいただいております。阿弥陀如来は五劫という長い長い時間をご苦労くだされ、悩み、迷う凡夫、誰もが無条件で救われる本願の教え。念仏の教えを成就され、悩み、苦しむ衆生を必ず救うぞ。安心しろよとお誓い下されたのです。如来様(仏様)のご苦労、ご恩を深くかたじけない思いでお感じなされた親鸞聖人は九十才で御往生遊ばされる直前まで、世間的なことは口にされず、如来様のご恩の深きことだけを述べられお念仏が絶えることがなかったと伝えられております。恥と恩を知らされずと何事にも勿体ないことです。これで充分満足ですと足るを知らされ、感謝の念に包まれる思いであります。

「足るを知らざる者は、富めりといえど貧し。

足るを知るものは、貧しといえど富めり。」

と申された釈尊の金言が嬉しく頷ける思いであります。合掌

住職

お寺は何のためにあるのですか？

浅草の仏具店にお念珠修理のための紐を買い求めようと立ち寄りましたら、上記の本に目が止まり買っちゃいました。ほんの少しだけ紹介させていただきます。

- お寺は生きている私たちが仏に出会い心をやわらかく整える場所。
- そして安心して生き、安心して死んでいける生死をこえる教え。
- 仏の願いを聞いてゆく場所がお寺なのです。

と書いてありました。本で読むよりはお寺に足を運んでご住職さんの話を聞かせていただいた方が良く理解が出来、感動と元気がいただけます。

本弘寺婦人会では会員さんを募っております。会員さんと言っても私たちと一緒に聞法しませんかという会です。決して難しい会でも怪しい会でもありません。どうぞ一声お掛けください。

もうひとつ相田みつをさんの詩をご紹介します。

「そのうち」

そのうち、お金がたまったら
 そのうち、家が建てたら
 そのうち、子供から手が離れたら
 そのうち、仕事が落ち着いたら
 そのうち、時間のゆとりが出来たら
 そのうち、そのうち、そのうち
 できない理由を繰り返しているうちに、結局何もやらなかった
 むなし人生の幕がおりて、頭の上に寂しい墓標が立つ
 そのうち、そのうち、日が暮れる
 今来たこの道、帰れない



今後のお知らせと予定

日付	本弘寺行事	婦人会行事
3月18日～24日	お彼岸	お茶接待、仏花販売
4月8日	花まつり	花まつり
4月26日～28日	本山750回御遠忌法要と越後御旧跡の旅	
6月20日	永代経	総会